

令和3年度

事業計画書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和3年度事業計画

当財団は京都コンサートホール，地域文化会館（5館），ロームシアター京都の指定管理者として施設の運営に当たるとともに，京都市交響楽団の運営も行っております。

令和2年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により，多くの財団自主公演で中止やプログラムの変更等を行うこととなりました。

また，京都市から貸館利用の受付の中止，施設の一時休館の指示及び貸館利用のキャンセルが相次ぎ，これまでに経験したことがない厳しい財政状況となっております。

令和3年度については，指定管理期間の3年目を迎える年となり，各地において文化芸術活動の再開の動きはみられるものの，依然として先行きが不透明な状況です。

そのような中であっても，各施設において感染拡大防止対策を適切に行いつつ，京都の文化芸術の魅力を国内外に発信し，文化芸術による心豊かな社会の形成に資する取組を進めるとともに，中長期的に財団運営が安定的に行えるよう効率的・効果的な運営を図り，財団の経営基盤の確立に努めてまいります。

京都コンサートホールにおいては，スタートから25回を迎える「京都の秋 音楽祭」の開催をはじめ，海外の一流オーケストラによる公演，三味線歌曲，長唄に能や狂言，近代音楽を加えた新たな演出による邦楽公演，京都コンサートホールと京都市交響楽団で展開するプロジェクト，「音楽の力」をアピールする特別なコンサート・シリーズなど，文化芸術都市・京都にふさわしい事業を展開してまいります。

地域文化会館においては，地域に根差した文化芸術活動の活性化を図ることを目的に，伝統音楽・伝統芸能を広く発信・披露する「KYOTO伝統芸能フェスティバル2021」を文化会館5館が連携し，開催します。

ロームシアター京都は，令和3年1月から3月にかけて実施している「ロームシアター京都開館5周年記念事業」を経て，より一層「世界市民のための劇場」になるべく，劇場文化の創出に努めてまいります。

さらに，京都市交響楽団は，令和元年度に策定した「京響ビジョン」に基づき，ビジョンに掲げた「目指す姿」を実現するための5つの戦略の推進に向けた具体的な取組を実施してまいります。

『公益目的事業』

■ 京都コンサートホール

I 主催・共催事業〔44事業50公演4講座〕

京都コンサートホールでは、“クラシック音楽の殿堂”として、当ホールを活動拠点とする京都市交響楽団の公演のほか、世界トップクラスのオーケストラ公演や世界的アーティストによる公演を中心に、京都でしか聴くことのできない独自の企画を実施することにより、文化芸術都市・京都の魅力の世界に向けて発信してまいります。今年で25回を迎えるホール主催事業「京都の秋 音楽祭」は京都市交響楽団の演奏による『開会記念コンサート』で幕を開け、約2か月にわたり21公演を実施いたします。また、コロナ禍の今こそ「音楽の力」をあらためてアピールする特別なコンサート・シリーズ4公演を大ホール、アンサンブルホールムラタで実施いたします。令和元年度より開始した「第1期 京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業」は最終年度を迎え、生演奏を現場に届けることにより地域住民との音楽的交流を図ります。

育成事業及び普及事業では、新たなクラシックファン拡大を目的として、廉価な価格設定によるコンサートを実施します。多様な視点を持つことで豊かな特徴を出し、より一層の振興・発展に貢献します。同時に、音楽を通してすべての市民がより豊かな感性を育み、生活に潤いをもたらすことができる一助となれるような事業を展開し、クラシック音楽専用ホールの役割を果たします。

京都コンサートホールは、文化芸術都市・京都の創生を体現した世界レベルの音楽芸術の殿堂にふさわしいホールを目指します。

1 京都市交響楽団の更なる飛躍を促進

京都市交響楽団による優れた演奏会の展開を図るため、主催事業の基幹となる「京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート」のほか、京都市交響楽団と京都コンサートホールが連携して行うプロジェクト・シリーズを開催します。令和3年度は、若手ピアニスト3名と共にショパンのピアノ独奏付き管弦楽曲3作品を演奏いたします。

また、アンサンブルホールムラタでは、京響メンバーによる様々なアンサンブルなどを共同制作し、個々の活動をサポートすることで、京都市交響楽団の飛躍に貢献します。

2 質の高い音楽芸術の鑑賞機会を提供

令和3年度は、ドイツから世界的指揮者ワレリー・ゲルギエフ率いるミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団を招へいし、世界のトップクラスのオーケストラの演奏をお聴きいただきます。

アンサンブルホールムラタでは、初のホール自主事業となる本格的な伝統芸能公演に取り組みます。そして、海外アーティストによる室内楽を主にしたシリーズ「北山クラシック倶

楽部」も引き続き展開します。クラシック音楽専用ホールであるアンサンブルホールムラタから発信する質の高い事業を通して、室内楽の鑑賞機会の充実を図るとともに、室内楽ファンの開拓を目指してまいります。

また令和3年度は、大ホール及びアンサンブルホールムラタにおいて、広上淳一京都コンサートホール館長が監修する、「音楽の力」を届けるコンサート・シリーズ『The Power of Music～今こそ、音楽の力を』を4公演実施します。音大・芸大生や若手のアーティスト、国内外の著名なアーティスト、狂言師による多彩な公演を実施し、様々な層の音楽ファンに高水準の演奏を提供いたします。

3 日本有数のパイプオルガンの活用

京都コンサートホールの大きな特徴のひとつであるパイプオルガンを活用した『オムロンパイプオルガン コンサートシリーズ』を2公演開催します。チケット完売が続くこのコンサート・シリーズは、今年で開催から25年という節目の年を迎えます。令和3年度は、「世界のオルガニスト」として国際的活躍を重ねる日本人オルガニストを、「オルガニスト・エトワール」としてソロ・デュオの両方で活動を重ねるオルガニスト2名を招き、さらなるファン層の拡大に努めながら市民の期待に応えてまいります。

4 ジュニアオーケストラの運営／大学生を中心とした実演家の育成支援

次代の文化芸術の担い手や鑑賞者の育成を図るとともに、文化芸術を通してコミュニケーションを促進し、青少年の健全な育成に寄与します。

平成17年度に設立した「京都市ジュニアオーケストラ」を京都市交響楽団員の演奏指導のもとに運営し、『第17回 京都市ジュニアオーケストラコンサート』で練習成果を発表します。また、京都市立芸術大学をはじめ関西の音楽大学8大学の学生らが出演する『第10回 関西の音楽大学オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサートホール』においても音楽教育の成果を発表する“音楽の檜舞台”の役割を果たしてまいります。

5 子どもや青少年の創造性を育む事業

教育プログラムとして、家族やクラシック音楽の初心者を対象とした『KCH的クラシック音楽のススメ』を開催し、様々な層にアピールすることで未来の聴衆を育成する役割を担います。同時に、第1回・第2回共にチケットが完売した『3つの時代を巡る楽器物語』の最終回の開催や、生演奏を介して地域住民と文化的交流を図る京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業『Join us! ～^{ジョイナス}キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』を実施することにより、クラシック音楽の普及に寄与してまいります。

また、幼児からオルガンに親しめる『ポジティブオルガン体験講座』では、コンサートホールという特別な空間を体感していただくとともに、実際に目の前の音楽に触れる体験を提供します。子どもたちの好奇心と想像力を刺激できるようなプログラムづくりを意識し、豊かな感性を育むことを目指して取り組みます。

6 地域の活性化と市民参加型演奏会の開催

新たな聴衆の拡大や、クラシック音楽ファンのすそ野を広げるために、幅広いジャンルの音楽をオリジナル企画として制作・開催します。財団が有するコーディネート力を活かし、音楽のあるまちづくりの中心として、賑わいをもたらす事業に取り組みます。

平日11時開演のマチネコンサートとして多大な人気を誇る『京都北山マチネ・シリーズ』では、全4公演を実施します。様々な楽器の演奏者、多彩なプログラムで、市民が気軽に音楽に親しめる機会を提供していくとともに、地域の商店街とランチタイムサービス等の協力関係を築き、地域の活性化にも貢献してまいります。

また、一般の演奏家が熱演を繰り広げる『リレーコンサート』では、実際に舞台に立つ喜びを提供します。市民に向けてより開かれた事業として、また音楽を通しての交流の場となることを目指して開催します。

ホールに賑わいをもたらすことを狙いとした『京都コンサートホール・ロビーコンサート』では、1階エントランスホールを活用し、入場無料とすることで様々な客層に対して来場機会を提供します。

さらには、ホール全体の魅力向上を目指し、レストランなどのスペースも積極的に活用してまいります。

7 音楽芸術活動の支援制度

将来の音楽芸術文化を担う人材の育成に資するため、音楽芸術活動を財政面で支援する「京都コンサートホール ホール利用助成制度」を引き続き実施し、大学の交響楽団演奏会や若手音楽家による室内楽演奏会などを支援します。また、大学からのインターンシップや中学校での「生き方探究チャレンジ体験」などの受け入れを積極的に行ってまいります。

(参考) ホール利用助成制度の実績

年 度	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)
実 績	17事業	15事業	7事業	11事業

(参考) 京都コンサートホールにおける事業・公演数の変遷

年 度	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)	令和3年度 (計画)
事業数	38事業	46事業	37事業	44事業	44事業
公演数	41公演	50公演	42公演	60公演	50公演
講座数	4講座	4講座	10講座	5講座	4講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和元年度はうち2事業3公演、令和2年度はうち30事業46公演を中止。

II 受託事業

1 指定管理業務

京都コンサートホールは「世界レベルの音楽芸術の殿堂」としての機能を高めるとともに、より安心・安全で利便性の高い公共ホールとしての機能を高め、更なる利用の促進を図ってまいります。

2 施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響により引き続き令和3年度も厳しい状況が続くと予想されますが、そのような状況の中でも施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保に努めるとともに、これまで以上に感染症対策を充実させ、利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう取り組み、令和3年度は指定管理申請時における目標設定を変更することなく維持してまいります。

目標1 利用料金収入額 (単位：千円)

区分	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
ホール利用料金	214,260	203,167	215,182	183,729
駐車場利用料金	20,000	18,199	17,956	14,858
合計	234,260	221,366	233,138	198,587

目標2 入場者数 (単位：名)

区分	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
入場者数	296,000	299,450	295,466	264,658

目標3 日数利用率 (単位：%)

施設	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
大ホール	68	66	69	61
アンサンブル ホールムラタ	60	58	61	57

- 上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。
- 学校関係に対し、利用案内の送付・営業訪問等を行います。
- 定期的なホール利用促進会議を実施し、近隣ホールを利用する団体、また周年を迎える企業や芸術文化団体をリサーチし、営業訪問等を行うとともに、ホールをご利用いただいた皆様へ、後日、アンケートを兼ねたお礼状を送付し、リピーターの確保並びにニーズ把握に努めます。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上会議（CS会議）の推進

全施設に設置しているCS（顧客満足度向上）会議やレセプション会議を引き続き開催し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上、コロナ禍における安全・安心のための対策に努めてまいります。

施設で働く全部門の従事者の代表が参加し、利用ニーズの把握、要望の検証等を協議し、「利用者が望むものは何か」を常に考え、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置

今年度も「理事長への手紙」を引き続き実施し、手紙をいただいた皆様からのご意見を参考に、これまで以上にサービスの向上に努めます。

また、施設の利用に関する要望や提案をお伺いするために、「お客様ご意見箱」の設置や、施設を利用する全ての利用者（鑑賞者、主催者、来館者等）を対象にしたアンケート調査を実施します。

(3) 京都コンサートホール鑑賞マナーの推奨

鑑賞者に演奏会をより快適な空間・環境で楽しんでいただくために、「鑑賞マナーリーフレット」の配布や館内に新型コロナウイルス感染症拡大防止のご協力についてポスターを掲示して、京都コンサートホールに来ていただいた全ての鑑賞者が安心・安全にお越しただけるようより良い環境づくりに努めてまいります。

(4) 施設管理体制の更なる強化

利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後、25年が経過し、施設の老朽化を踏まえ日常の設備運用や保守点検、備品管理等を適正に実施します。また、京都市による劣化度調査の結果を踏まえた大規模改修へ向け、計画的かつ効率的な修繕や改修計画の実施に向けて取り組みます。

(5) 外国人観光客に向けた取組

京都コンサートホールに来場する外国人観光客に対応するため、館内の英語による表示や場内英語アナウンスの充実を図ってまいります。

また、英語対応の販売システムを通じ、より多くの外国人の方にチケット購入をしていただけるようホームページに掲載の公演情報の英語版の充実を引き続き取り組んでまいります。

(6) 開館25周年を記念した取組の披露

京都コンサートホール開館25周年を機に、開館以来使用していたレセプションデスクユニフォームを更新しました。建築物のコンセプトや機能性、現代性等を兼ね備えた新しいユニフォームを、第25回を迎える「京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート」にて披露いたします。また、京都の伝統産業等を活かしたグッズ商品の販売、京都コンサートホールの25年間を振り返った「開館25周年記念サイト」もホームページ上で引き続き掲載いたします。

(7) 貸館予約受付や顧客管理、統計システムのデータ化の実施

ロームシアター京都、地域文化会館を含めた7施設において、利用者へのサービス向上はもとより、貸館予約受付や顧客管理、各種統計データなど、業務の効率化等に向けた「貸館管理・運営システム」（仮称）を段階的に構築・導入を進めてまいります。

4 広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

(1) 自主事業ラインアップの発行

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するための年間パンフレットを発行し、京都コンサートホールのビジョンを提示することで、劇場のファンを増やすとともに、施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

(2) 催物カレンダーの発行（毎月）

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のほか、京都コンサートホールで開催される最新の催物情報を掲載した「京都コンサートホール コンサートガイド」を毎月発行します。デザインも一新し、より見やすく魅力的な情報をお届けすることで、チケットの販売促進につなげます。

(3) ホームページ等の充実

インターネットの利点を最大限に活かし、閲覧者に常に新鮮な情報を発信し、情報の充実や画面の見やすさ、離脱しにくいページの工夫を行ってまいります。貸館についてのページも拡充し、初めてホールを利用するお客様にも分かりやすく使いやすい、貸館利用促進に繋がるページにしてまいります。また、英語対応の販売システムを通じ、より多くの外国人の方にチケット購入をしていただけるようホームページに掲載の公演情報の英語版の充実を継続的に取り組んでまいります。

(4) チケット票券管理システムの効果的な運用

ロームシアター京都と共通のチケット販売システムの運用を行い、市民サービスの向上とともに来場者の増加や貸館利用促進に結びつけてまいります。

(5) 貸館利用者のチケット販売受託業務の実施

チケット管理システム（Getii）を使用して、貸館利用者のチケット販売を受託（手数料10%）し、施設利用者や観客の利便性向上に貢献します。

(6) セット券の販売

お客様の多様なニーズに対応するため、セット券を販売します。令和3年度は、アンサンブルホールムラタで世界のトップクラスの室内楽を鑑賞する『北山クラシック倶楽部』のセット券（前半3公演、後半4公演、それぞれ100枚限定。共通座席「マイシート」適用）を販売し、単券で購入するよりもおよそ15%安価に提供することで、最上の鑑賞機会を提供します。

(7) 学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境の整備

コンサートホールの自主事業における学生割引制度、シニア割引制度、障がい者割引制度を実施し、学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境を整備します。

(8) ウィークデーパッケージプランの運用

クラシック音楽だけではなく、他のジャンルにも間口を広げ、多様な音楽ファンが集えるホールとして「京都コンサートホールウィークデーパッケージプラン」を引き続き実施し、平日のホール利用率向上に努めます。

(参考) ウィークデーパッケージプラン事業数

年 度	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)
事業数	11事業	16事業	5事業	3事業

(9) 外部資金の獲得

主催事業の実施に当たっては、文化庁助成、民間助成に加え、民間企業等からの協賛金の獲得に努めます。さらには、賛助会員制度（5 各種会員制度等の運営（2）賛助会員制度の運営 参照）を活用します。

5 各種会員制度等の運営

(1) 「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組

ロームシアター京都のオープンに伴い、「京都コンサートホールClub」を「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」と改称し、平成27年度から運用を始めました。令和3年度も引き続き「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の周知を図るとともに、会員様を限定とした京都市交響楽団の練習風景の公開や京都コンサートホール・ロームシアター京都の両施設のバックステージツアーやグッズ割引を実施するなどの特典を付与することにより、新規会員の獲得に努めてまいります。

フレンズ（オンライン）会員についても、メールマガジンで随時情報を発信して京都コンサートホールとロームシアター京都への関心を喚起し、会員の維持・拡大に努めます。

（参考）会員数の推移

（単位：名）

会 員 制 度	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)
京都コンサートホール・ ロームシアター京都Club	3,074	2,897	2,761	2,100

（２）賛助会員制度の運営

京都コンサートホールならびにロームシアター京都の主催事業の一層の充実のため、年間を通じた支援を受けるべく、賛助会員（サポーター・パートナー会員）制度を設けています。会員の方には情報誌の送付、チケットの先行予約、会員向けイベントなどの特典をご用意し、継続してご支援いただけるよう努めます。

（参考）会員数と寄付金額の推移

会 員 区 分	平成30年度 実績		令和元年度 実績		令和2年度 (見込)	
スペシャルサポーター（法人）	1件	50万円	2件	100万円	2件	100万円
サポーター（法人）	31件	340万円	28件	290万円	21件	220万円
スペシャルパートナー（個人）	32件	162万円	36件	176万円	33件	218万円
パートナー（個人）	45件	90万円	46件	92万円	52件	104万円
合 計	109件	642万円	112件	658万円	108件	642万円

■ 地域文化会館

(東部文化会館, 呉竹文化センター, 西文化会館ウエスティ, 北文化会館, 右京ふれあい文化会館)

I 主催事業〔全55事業48公演9講座〕

地域文化会館が地域の文化芸術の活動拠点として、平成23年度から取り組んできた「地域文化芸術活動活性化協議会」「文化芸術活性化パートナーシップ事業」「アウトリーチ活動」などを引き続き実施し、文化芸術活動団体、行政、学校関係、地元の各団体等とのネットワークを強化し、文化芸術活動や情報の受発信、文化芸術活動の育成や支援、地域イベントへの積極的な関与など地域との関わりを深め、地域の文化芸術の振興に努めてまいります。

1 地域文化芸術活動活性化協議会の開催

各地域文化会館を拠点に活動しているパートナーシップ団体、行政、教育機関など、それぞれの代表者で構成された「地域文化芸術活動活性化協議会」を各地域文化会館に引き続き設置し、地域ネットワークの構築、文化芸術の情報提供、アウトリーチ事業の開催協力、施設運営への助言や意見交換などを行うとともに、協議会の持つネットワークを活用し、文化芸術活動・情報の受発信、事業の協働企画・開催など文化芸術の活動拠点として、より一層、地域における文化芸術活動の活性化を図るとともに、魅力ある地域づくりに貢献してまいります。

2 地域文化会館の重点的な取組

地域文化会館では、以下の5つの視点を重視した文化事業を実施します。

- ① 文化芸術活性化パートナーシップ事業
- ② 地域における文化芸術普及事業
- ③ 地域の文化芸術活動を担う人材育成事業
- ④ 住民の文化芸術活動への支援型事業
- ⑤ 施設間の交流事業

(1) 文化芸術活性化パートナーシップ事業

京都市から委託を受けて取り組んできた「フランチャイズ(活動拠点)化事業」を、平成23年度から名称変更し財団の自主事業として、「文化芸術活性化パートナーシップ事業」を実施しています。本事業では、文化会館が地域の文化芸術の拠点であることを意識し、将来的に京都コンサートホール及びロームシアター京都との連携事業も視野に入れ、鑑賞型の「無料公演」に加えて、地域の子どもたちを対象とした「教育プログラム」のほか「アウトリーチ活動」にも積極的に取り組みます。また、地域の教育機関や福祉施設と連携し、文化芸術の社会包摂機能の更なる活用や地元の文化芸術団体と連携し、文化芸術活動の活性化やネットワークの強化と拡大を図ってまいります。

(参考) 令和3年度パートナー団体

文化会館名	パートナー団体
東部文化会館	日吉ヶ丘ギターマンドリンアンサンブル 京都橘大学吹奏楽部
呉竹文化センター	墨染交響楽団
西文化会館ウエスティ	NPO法人京都フィルハーモニー室内合奏団 吹奏楽団京都ムジークフェライン
北文化会館	吹奏楽団「雅」 京都セシリア合唱団
右京ふれあい文化会館	NEO吹奏楽団 RAM吹奏楽団

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各団体が十分な活動ができなかったことから、令和3年度は、地域の文化芸術の活性化に向けた活動の充実を目的とし、令和2年度と同じパートナー団体（10団体）に継続の依頼を行ったところ、上記9団体（1団体辞退）となりました。

(2) 地域における文化芸術普及事業

ア 伝統的芸術文化の紹介

伝統音楽・伝統芸能を文化会館5館が連携し、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として広く発信・披露する「KYOTO伝統芸能フェスティバル2021」を開催します。東部文化会館ではわかりやすい解説とワークショップを交えた「地域みんなの狂言鑑賞会」、呉竹文化センターでは藤森雅楽会による「地域の伝統文化との出会い」、西文化会館ウエスティではプロの唸家による質の高い伝統話芸「伝統芸能シリーズ ウエスティ寄席」、北文化会館では「KITABUN伝統芸能音楽会「和楽器の響き」、右京ふれあい文化会館では「京の三大念佛狂言～壬生・嵯峨・千本ゑんま堂」をそれぞれ開催します。

イ アウトリーチ事業

地域文化会館5館で、市民の文化芸術活動の活性化や地域の文化芸術の振興を目的として、地域文化会館に登録している協力団体（文化芸術活動団体）が地域の各団体、学校、福祉施設などからの依頼により、ミニコンサートやワークショップ等を行う「アウトリーチ事業」に積極的に取り組みます。

また、京都のクラシック音楽の殿堂として機能する京都コンサートホールと連携し、生のクラシック音楽をより多くの市民に届ける、京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業『Join us! ^{ジョイナス} ～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』を協働で実施します。

(3) 地域の文化芸術活動を担う人材育成事業

ア 地域の教育機関との連携

京都市立芸術大学と連携した「ウエスティ音暦（おとごよみ）」（2公演）を西文化会館ウエスティで、また、「京都市立芸術大学 文化会館コンサートⅠ・Ⅱ」（2公演）を北文化会館で実施し、才能ある若い世代の活動を支援します。また、東部文化会館では、京都橘大学と連携し、文化芸術の振興に寄与する人材の育成を目的とした「文化芸術による地域貢献プロジェクト」を引き続き実施します。

さらに、京都市内の総合支援学校の生徒、保護者等を対象とし、気兼ねなく生演奏に触れ音楽を楽しむことのできる機会を提供するアンサンブルコンサートを京都市交響楽団と連携して開催します。

イ 子どもを対象とした体験型事業

次世代の文化芸術活動を担う子どもたちが、多様な芸術表現や劇場に触れ豊かな感性と創造性を身につけるための事業として、西文化会館ウエスティで「夏休みウエスティたんけんツアー」を実施します。

(4) 住民の文化芸術活動への支援型事業

ア 市民参加型事業（活動団体の支援）

市民の誰もが文化芸術活動に参加し自己表現することに感動できる事業として、「市民創造ステージ」を令和3年度も引き続き呉竹文化センター、西文化会館ウエスティ、北文化会館で開催します。

また、東部文化会館では、地域との連携・協働による参加型事業として、地域のコーラスサークルによる発表や交流の場とする「第16回コーラス・フェスティバル in 山科・醍醐」を開催します。

イ 地域と連携しアーティストのパフォーマンスを支援

西文化会館ウエスティでは地域ネットワークを活用し、地元で活動している文化芸術活動団体にパフォーマンスの場を提供し、地域への活動情報の発信などを通じてアーティストの技術・芸術性向上への支援を行う「ウエスティ・パフォーマンス広場」を開催し、また、右京ふれあい文化会館では、文化芸術活性化協議会との連携事業として、地域で活動している文化芸術団体などにパフォーマンスの場を提供するとともに、地域住民のコミュニティの場として「あーる de 右京」を開催します。

ウ 「右京ふれあい文化会館」開館20周年記念事業

市民に親しまれてきた右京ふれあい文化会館が、令和3年9月で開館20年を迎えます。記念事業として、右京区ゆかりの著名人による講演会や近隣の太秦には映画撮影所

があることから、キネマの町に因んで、著名な映画監督による講演会、日本の昔懐かしい名作映画の上映会を開催します。

エ 創作文化の作品展示

賑わいスペースの創出として、東部文化会館では「ギャラリーエコム」、呉竹文化センターでは「呉竹アートケース」、西文化会館ウエスティでは「ウエスティ ギャラリー」、北文化会館では「KITABUNミニギャラリー」、右京ふれあい文化会館では「右京ふれあいミニギャラリー」を通年で開催します。

オ 舞台芸術活動なんでも相談会

市民の舞台芸術の芸術性や創造性を高めるため、公演やコンサートでの照明・音響演出、舞台運営方法など舞台づくりに関する相談について、専門性豊かな技術担当者が提案やアドバイスを行います。

(5) 施設間の交流事業

ア 鑑賞型事業の実施

市民が京都市交響楽団を通じて、気軽にクラシック音楽を楽しめるように、京都市交響楽団のメンバーによるクラシック音楽のコンサート「ちょっと素敵なお朝からクラシック」を呉竹文化センター2公演と北文化会館1公演を開催します。

また、京都市交響楽団と連携し、文化会館5館において低料金で0才から入場できる「みんなのコンサート」の開催や、京都市内の総合支援学校の生徒、保護者等を対象とし、気兼ねなく生演奏に触れ音楽を楽しむことのできる機会を提供するアンサンブルコンサートを開催します。

イ 乳幼児、幼児向けの公演の実施

地域文化会館5館とロームシアター京都との連携事業として、子どもたちの創造性を豊かにするとともに、親子で舞台芸術文化に身近に触れる機会を提供し、地域コミュニティの活性化することを目的とした作品の制作に向け、各館を会場とした乳幼児向けの作品上演と意見交換会を実施します。

ウ 京都市ジュニアオーケストラの活動支援

京都コンサートホールとの連携事業で京都市交響楽団が指導する「京都市ジュニアオーケストラ」においては、音楽活動を充実させるため、練習会場として各地域文化会館を活用するとともに、活動内容の情報を発信するなど、若いオーケストラを支える環境づくりを行います。

また、呉竹文化センターでは、「ミュージック・サマー・コンサート」を無料で開催します。

エ 京響コーラスの活動支援

京響コーラスの練習会場として文化会館での利用支援や練習公開を実施することで、京響コーラスのレベルアップと地域の文化振興を図ります。

(参考) 文化会館における事業・公演数の変遷

年 度	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)	令和3年度 (計画)
事業数	52事業	50事業	53事業	55事業	55事業
公演数	75公演	74公演	70公演	63公演	48公演
講座数	11講座	20講座	18講座	4講座	9講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和元年度はうち5事業10公演、令和2年度はうち30事業34公演3講座を中止。

II 受託事業

1 指定管理者業務

地域文化会館の指定管理者として、地域住民の文化芸術を核にした「豊かなくらしの実感」を提供するとともに地域住民の多彩な文化的活動の拠点としての機能を発揮し、更なる利用の促進を図ります。

2 施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響により引き続き令和3年度も厳しい状況が続くと予想されますが、そのような状況の中でも施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保に努めるとともに、これまで以上に感染症対策を充実させ、利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう取り組み、令和3年度は指定管理申請時における目標設定を変更することなく維持してまいります。

目標1 利用料金収入額

(単位：千円)

施設	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
東 部 文 化 会 館	30,954	29,705	30,756	29,069
呉竹文化センター	43,186	40,044	37,665	59,045
西文化会館ウエスティ	34,843	32,806	31,099	30,247
北 文 化 会 館	39,010	37,187	38,126	31,591
右京ふれあい文化会館	36,778	36,572	33,631	35,562

目標2 日数利用率

(単位：%)

施設	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
東 部 文 化 会 館	63	59	64	55
呉竹文化センター	77	76	74	69
西文化会館ウエスティ	61	57	60	60
北 文 化 会 館	78	77	77	59
右京ふれあい文化会館	78	77	69	67

以上、各施設の規模、立地条件、地域との連携等を活かした事業を企画し、各種文化芸術活動団体、教育機関、京都市交響楽団との連携をより一層深めながら、文化芸術の振興・発展を目指すとともに、サンキューレターの活用による利用者のリピート率向上を図り、これまで以上に集客及び増収に取り組んでまいります。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上委員会（CS委員会）の推進【再掲】

京都コンサートホール（6ページ）参照

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置【再掲】

京都コンサートホール（6ページ）参照

4 集客のための取組

(1) 地域文化会館割引制度

地域文化会館の平日のホール利用の促進や、追加利用に対するサービス向上を図るため、引き続き平日直前利用割引制度と平日連続区分利用割引制度を実施します。

(参考) 地域文化会館割引制度利用数 (単位：件)

平日直前利用割引	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)
東 部 文 化 会 館	3	6
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	1	3
西文化会館ウエスティ	4	0
北 文 化 会 館	0	1
右京ふれあい文化会館	8	0
計	16	10

平日連続区分利用割引	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)
東 部 文 化 会 館	49	17
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	61	38
西文化会館ウエスティ	31	19
北 文 化 会 館	25	26
右京ふれあい文化会館	39	19
計	205	119

■ ロームシアター京都

I 主催・共催事業

令和3年1月から3月にかけて行っている「ロームシアター京都開館5周年記念事業」を経て、より一層「世界市民のための劇場」になるべく、劇場文化の創出に努めてまいります。

令和3年度のラインアップテーマは「声」です。これには、大きく2つの意味を持たせており、ひとつは《自分たちの「声」(=活動)を取りもどすこと》、そしてもうひとつは《声なき声に耳を傾けること》です。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大によって、舞台芸術は活動停止・縮小を余儀なくされました。状況に応じた上演・創作環境のなかでも、自分たちの表現を追い求め、場をつくり出し、観客との関係をあきらめないアーティストたちとの協働によってプログラムを展開してまいります。また、ここ数年のBlack Lives Matterなどの高まりもあり、社会的弱者とされてきた人々のこれまで出せなかった「声なき声」に耳を傾け、想像し、共に思考する時間を持つことを、国内外の新鋭からそのジャンルを代表するようなアーティストまで、多彩なプログラムを通して提案してまいります。さらに、オンライン活用した事業にも取り組みます。

あわせて、賑わいスペース事業やミュージックサロン事業等により、賑わいの創出や身近に文化芸術に親しむための取組を引き続き進めてまいります。

1 主催・共催事業の実施〔29事業48公演4講座〕

世界水準の優れた作品をお届けするとともに、作品と社会の関係や、作品を創造し育むための様々な視点を得ながら、ロームシアター京都ならではの方法を試行錯誤し、今日における劇場の果たすべき役割を見出していきます。

上記の目的を果たすため、自ら舞台芸術作品を企画・制作するシリーズ、他の劇場・芸術団体と共同で新作を制作するシリーズを発展させ、その作品の背景や見どころについての理解を促し、鑑賞の手引きとなるような関連プログラムやパンフレット等を充実させます。さらに、地域文化会館や青少年活動センターなど、京都で活動する他の文化施設と連携し、京都における文化芸術のハブとしての機能を高めるための事業を実施します。小澤征爾音楽塾や新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室といった従来の事業に加え、「劇場の学校プロジェクト」などの次代を担う若者を育成する事業をより深化させていきます。また、京都国際舞台芸術祭といった国内外の交流と地域の賑わいを創出する事業も引き続き実施します。

2 賑わいスペース事業

パークプラザには、飲食をしながら読書などができるブック&カフェや、催物前後の語りを楽しむことのできるレストラン等があり、また、岡崎公園ともつながるローム・スクエアやロビー等では、マルシェなどの野外イベントや芸術作品の展示等を通じて子どもから大人まで楽しめる空間が広がっており、様々な人々が日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶサイクルが生まれています。

ロームシアター京都が舞台芸術にとどまらず、多くの方の交流の場となり、岡崎エリアの賑わいの一翼を担っていくために、賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と調整・連携を図り、ホールでの催物に加えて日常的にさまざまなサービスやイベントを展開していきます。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、営業時間については、これまで通常としていたものから一時的に変更していますが、令和3年度においても、社会的状況を踏まえ適切な営業時間で運営を行うものとします。

(参考) 賑わいスペースを活用した事業内容等

事業内容	場所、店舗名称	営業時間※
ブック&カフェ	パークプラザ1階 (屋外テラス等を含む) 【京都岡崎 蔦屋書店】 【スターバックスコーヒー】	午前8時から午後10時※
ギフト雑貨販売		午前8時から午後10時※
クローク		午前8時から午後9時※
レンタサイクル		午前8時から午後8時※
インフォメーション		午前8時から午後10時※
レストラン	パークプラザ2階 (屋外テラス等を含む) 【京都モダンテラス】	午前8時から午後11時※
レセプション		
コンベンションサービス		
キオスク	サウスホール1階ホワイエ内 【ファミリーマート】	午前8時から午後10時※
ギャラリー・ライブラリー	パークプラザ3階 共通ロビー内 【BOOK&ART GALLERIA】	午前9時から午後7時※ (開館時間等に応じて変更)

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、本欄記載の営業時間から一時的に変更して営業している場合があります。

3 ミュージックサロン事業

音楽をはじめとした文化芸術に様々な形で触れ合うことができる音楽総合体験施設「ミュージックサロン」(パークプラザ3階)を、公益財団法人ロームミュージックファンデーションと共同運営します。

「ミュージックサロン」は、①音楽その他文化芸術に関する資料の展示、②セミナー、講演会、コンサート等の文化芸術イベントを開催する施設として運営しています。オーケストラやオペラなどの貴重な映像を大型スクリーンでご鑑賞いただいたり、ロームシアター京都でのオペラ公演に関連する特別展示等を開催するほか、概ね2ヶ月ごとにコンサートを開催してまいります(入場無料)。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、オンラインによる配信等も活用してまいります。

(参考) ロームシアター京都における事業・公演数の変遷

年 度	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)	令和3年度 (計画)
事業数	34事業	31事業	32事業	30事業	29事業
公演数	111公演	93公演	87公演	64公演	48公演
講座数	4講座1展示	2講座	10講座	3講座	4講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和元年度はうち4事業8公演2講座、令和2年度はうち10事業30公演1講座を中止。

II 受託事業

1 指定管理業務

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ホール施設等を利用した催しについては、開催にあたって感染拡大予防策が必要となっており、令和3年度においても、感染拡大防止ガイドラインの更新等により適切な情報提供と対策実施に取り組み、施設を安心してご利用いただけるように努めます。

その上で、各施設の特性を活かした施設利用が行われるよう、充実した設備や立地、また新しい施設としての注目度を活かした集客の可能性や実績の強調等により、従前の利用者にもこれまで通り利用していただきながら、MICEなども含めた新たな利用の促進も引き続き図ってまいります。

また、的確な利用調整や各種指標に基づく施設管理等による効率的で効果的な施設運営を行い、あわせて利用料金収入の確保に努めます。

2 施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き令和3年度も厳しい状況が続くと予想されますが、そのような状況の中でも施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保に努めるとともに、これまで以上に感染症対策を充実させ、利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう取り組み、令和3年度は指定管理申請時における目標設定を変更することなく維持してまいります。

(1) 施設利用促進に向けた営業活動

各施設の特性やこれまでの実績等を踏まえ、本格的な総合舞台芸術公演等を積極的に誘致するとともに、市民の文化活動の発表の場として各施設の特性が最大限発揮されるような利用を促進していきます。また、利用者への各種サポート等により利便性の向上に努め、繰り返しロームシアター京都を利用していただけるよう努めてまいります。

(2) MICE誘致に向けた関係機関との定期的な協議

多彩な文化・交流施設が集積し、国の「重要文化的景観」にも選定された岡崎エリアにおいて、より質の高いMICEの開催が可能となることを積極的にPRするとともに、MICE等の誘致・対応に向けて、京都市及び京都文化交流コンベンションビューロー、みやこめっせ、京都市京セラ美術館等との情報連携を強化し、様々なニーズに応じていきます。

目標1 利用料金収入額

(単位：千円)

区分	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
ホール等利用料金	346,296	353,364	333,812	337,152

目標 2 入場者数 (単位：名)

区 分	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
入場者数	330,000	707,367	497,784	478,875

目標 3 日数利用率 (単位：%)

施 設	令和3年度 目標	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
メインホール	82	82	81	74
サウスホール	76	76	80	77
ノースホール	74	74	72	77

○上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。

○関西圏・首都圏の主要プロモーター・プロダクションや、京都府・京都市内の教育機関、文化団体への営業活動等を実施します。

○ノースホールについては新たな施設であることから、主催事業等で実績を強調しホールの存在をアピールするほか、新たな利用想定にあった利用者候補（演劇や舞踊など）を新規開拓するとともに、利用しやすい環境づくりに努め、利用に結び付けていきます。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上会議（CS会議）等の推進

利用者・来場者の安心・安全を確保し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上のため、職員や委託業者が参加するCS（顧客満足度向上）会議等を開催し、利用ニーズの把握、要望の検証等を行い、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」の設置【再掲】

京都コンサートホール（6 ページ）参照

(3) 賑わいスペース事業者定期連絡会の開催

賑わいスペース事業における各店舗の責任者等との定期的な連絡会を開催し、日常的な施設運営に係る様々な情報共有を確実に行うことで、施設全体として円滑な連携のもと、サービスの向上に努めます。

(4) 施設管理体制の更なる強化

利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後の実際の運用により把握してきた施設や各種機器の特性などを踏まえ、利用状況や季節変動等に応じた日常の設備運用や保守点検、備品管理などを工夫し、利用者への情報提供等を行うことで、よりの確で効率的な施設運営に努めま

す。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すでに策定したガイドラインやサーモグラフィ等の機材・設備等の適切な運用を行うとともに、職員等の業務内容や体制面での整備も進めるとともに、従前から進めている各種マニュアルの更新や場内サービス業務等の研修、施設全体に係る防災訓練等を引き続き、実施することで、安心・安全で快適な劇場空間を提供してまいります。

開館5年を経て、施設・設備も老朽化等が進み始めていることから、計画的かつ、効率的な修繕の実施、また、今後の修繕計画の策定に取り組みます。

4 広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

催物カレンダーや事業ラインアップの発行、ホームページやSNSの運用、貸館の広報、会員制度の運用及び事業実施等にあわせた話題づくり等により、効果的な広報・宣伝を展開し、ロームシアター京都への期待感を引き続き高めていくとともに、劇場の認知度をさらに高めることで来館や貸館利用の促進に努めます。

また、京都コンサートホールと共通のチケット販売システムの運用を行い、市民サービスの向上とともに貸館利用促進に結びつけてまいります。

(1) 自主事業ラインアップの発行

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するためのリーフレットを発行し、ロームシアター京都のビジョンを提示することで、劇場のファンを増やすとともに、施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

(2) 催物カレンダーの発行（毎月）

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のほか、ロームシアター京都で開催される最新の催物情報を掲載した「ロームシアター京都 イベントカレンダー」を毎月発行し、チケットの販売促進につなげます。

(3) ホームページ等の充実

ホームページについては、平成27年度に開設し、アクセスの分析等を踏まえた掲載情報の更新、閲覧や掲載作業に係るシステムの更新等を重ねてきました。新型コロナウイルス感染拡大の状況下においては、オンラインでアクセスできるコンテンツの重要性も増していることから、令和3年度には、特設サイト等によりコンテンツをさらに充実させるとともに、SNSの活用等も含め、より閲覧しやすく使用しやすいものとなるよう工夫を図ってまいります。

(4) チケット票券管理システムの効果的な運用【再掲】

京都コンサートホール（7ページ）参照

(5) 貸館利用者のチケット販売受託業務の実施【再掲】

京都コンサートホール（8ページ）参照

(6) 外部資金の獲得【再掲】

京都コンサートホール（8ページ）参照

5 各種会員制度の運営

(1) 「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組【再掲】

京都コンサートホール（8ページ）参照

(2) 賛助会員制度の運営【再掲】

京都コンサートホール（9ページ）参照

6 ハラスメント防止ガイドラインの策定

ロームシアター京都では、令和3年2月14日に実施したシンポジウム《劇場におけるハラスメントを考える「個人が尊重され、豊かな対話が生まれるために」》において、「ハラスメント防止ガイドライン～ロームシアター京都で過ごす全ての人のために～（案）」を発表しました。京都市の公共劇場として、誰もが尊重され、活発な意見交換や対話が行われる場となることを目指し、劇場WEBサイト上で募集したご意見を参考に、令和3年度中の策定に向けて取り組んでまいります。

■ 京都市交響楽団

1956年、西洋に起源を持つオーケストラを「京都の新たな文化財」として構想し、日本初の自治体オーケストラとして誕生した京都市交響楽団は、設立から半世紀超、多くの市民に支えられながら、日々演奏力に磨きをかけ、最良の音楽を届けることに邁進し、文化的な市民生活に寄与するとともに、日本屈指のオーケストラとして評価されるまでに、成長・発展を続けてきました。

こうした中、特別職非常勤嘱託員の任用要件の厳格化等を趣旨とする、地方公務員法及び地方自治法が改正（平成29年5月公布、令和2年4月施行）され、これに伴い、京都市交響楽団楽団員については、京都市音楽芸術文化振興財団の職員とすることとし、今後も京都市が京響の設置に責任を持つため、京都市交響楽団条例が制定（平成31年3月公布、令和2年4月施行）されました。

京都市交響楽団が新たなステージを迎えるにあたり、改めて、京都市音楽芸術文化振興財団と、京都市交響楽団の設置に責任を持つ京都市は、オーケストラの意義、市民にとっての価値等を自問し、市民の皆さまとも未来に向かう方向性を共有する、「京都市交響楽団ビジョン」を策定（令和元年12月）し、「共に響き合う、京響」というキャッチフレーズを掲げました。このビジョンの下、「身近な存在として、市民に愛され誇りとされるオーケストラ」「文化芸術都市・京都の象徴となるオーケストラ」「世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ」を目指し、これまで培ってきた財産を継承しながら、新たな時代を見据えて果たすべき役割を自覚し、更なる発展を目指してまいります。

I 主催・共催事業〔30事業53公演〕

1 定期演奏会

広上淳一第13代常任指揮者兼芸術顧問、ジョン・アクセルロッド首席客演指揮者に加え、巨匠から実力派、新進気鋭の若手まで幅広く、世界で活躍する指揮者やソリストを招き、古典から近・現代までの魅力あふれる楽曲を数多く揃え、芸術性の高い、充実した演奏を提供してまいります。

2 特別演奏会

恒例のスプリングコンサート、第九コンサート及びニューイヤーコンサートを開催し、充実した出演者と心躍る楽曲により、時節を彩る演奏をお届けします。

3 特別演奏会（市外公演）

第13代常任指揮者兼芸術顧問である広上淳一指揮のもと、東京公演のほか、大阪及び名古屋で演奏会を開催し、日本屈指の演奏力と評される京響の知名度や評価の全国区での更なる浸透を目指します。

4 オークストラ・ディスカバリー

名曲の演奏と楽しいトークでオーケストラやクラシック音楽の魅力を紹介する青少年のための演奏会を開催し、青少年の情操の向上や健全な心の育成とともに、若い世代へのオーケストラの振興と普及を図ります。年4回のシリーズ券を設定することにより、定期演奏会の会員への導入コンサートとしての位置づけとしています。

5 みんなのコンサート

地域の文化会館を会場に低料金で0才から入場できる演奏会を開催し、日頃クラシック音楽に接する機会の少ない市民の皆様にも身近で生の演奏に接する機会を提供し、地域密着型のオーケストラとしてクラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、京響ファンの獲得を図ります。

6 ロームシアター京都及び地域文化会館との連携事業等

クラシック音楽のジャンルを超えたアーティスト・芸術文化とのコラボレーションによる演奏会をロームシアター京都と協働で開催し、オーケストラの生み出す新しい音楽世界の魅力を提供することにより、幅広いオーケストラファンの獲得を図ります。

また、地域文化会館が実施するアウトリーチ事業に協働で取り組み、地域の文化芸術の振興を図ります。

7 共催事業

京都市の小・中学生を対象とした音楽鑑賞教室を開催するなど、クラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、京響ファンの獲得を図ります。

8 その他事業

京都市ジュニアオーケストラへの演奏指導、中学生や高校生を対象とした楽器講習会、京響コーラスの運営など、京都に根差した音楽活動を通して、京響を市民に身近に感じていただく活動や将来の音楽文化の担い手の育成などにも取り組みます。

9 「京響友の会」

新型コロナウイルス感染症における社会状況を鑑み、令和3年度は会員募集を休止し、令和4年度の再開に向け、制度の再構築を図ってまいります。

(参考) 会員数の推移

(単位：名)

会 員 制 度	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 (見込)
京響友の会 個人会員	1,406	1,433	1,439	1,348
京響友の会 法人会員(社)	100	95	98	89

Ⅱ 受託事業

依頼に応じて、京都市内の演奏会に加え、兵庫公演や京都府下（綾部、福知山公演）、神奈川県（川崎市）、静岡県（菊川市）など市外の演奏会にも出演し、クラシック音楽の普及や京響のアピールに取り組めます。

■ その他

I 組織人員体制・配置等の最適化

令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等の減収が見込まれることから、これまで以上に組織運営・人員体制の実態を分析し、より効果的・効率的な職員の配置を行うとともに、中長期的な計画で財源を確保する必要があることから、職員給与の改定を行うなど、人件費の削減に努めてまいります。

II 働き方改革等への対応

パートタイム・有期雇用労働法に関する法改正への対応を的確に行い、財団内の職員間における不合理な待遇の差をなくし、どのような雇用形態の職員にとっても働きやすい職場環境づくりに努めてまいります。

また、令和3年度については引き続き、年次有給休暇の取得の推進や時間外労働の抑制の推進を行うとともに、コロナ禍の状況に合わせ、柔軟に新しい働き方を検討してまいります。

III 人材育成・職員研修

職員一人ひとりが、常に知識、意欲、技術の向上を図ることで利用者により一層気持ちよく使用していただくとともに、社会的要請や環境変化に対応して、より自立的・安定的な組織運営力を発揮していくために必要な研修を実施してまいります。

令和3年度については、すべての基本となる接遇マナー研修をはじめ、多くの利用者が集まる施設の管理運営を行っていることから消防訓練、AED講習、エレベーター停止対応訓練、舞台管理安全研修等を継続的に実施いたします。

また、効果的・効率的な職員の配置を行うために、新規採用職員に対して、基本研修やコンプライアンスの一層の推進を図る研修を引き続き実施するとともに、管理職員向けに評価研修等を実施してまいります。

さらに、令和2年度に策定した、「ハラスメント防止に関する職員向け手引き」を基本に、継続的に研修等を実施し、ハラスメントについて考える機会を設けてまいります。

IV 環境への配慮

当財団は、平成20年のKES（京都市環境マネジメントシステム・スタンダード）認証の取得以後、毎年再認証を取得しています。

令和3年度も、職員全員が環境マネジメント活動を推進し、地球環境との調和を目指し、積極的な節電対策など環境に配慮した会館運営を行います。

また、リサイクル促進について、利用者から発生する缶・ビン・ペットボトルなど、ゴミの分別廃棄を徹底するとともに、業務上発生する印刷書類等裏側の再利用やリサイクル紙の購入等をはじめとするグリーン調達を行います。

設備・備品調達や外部委託発注においても、グリーン調達及び委託業者の環境配慮動向を見極めた発注を行うように努めます。

さらにエネルギー削減を行うため、会館内の適正冷暖房の設定及び不必要な電灯の消灯等の取組を徹底してまいります。

V 京都市交響楽団ビジョンの実現に向けた取組

令和元年度に策定した、「京響ビジョン」の5つの戦略の推進に向けて、京都市との協議、連携のもと、引き続き、財政・人的支援の確保を行い、安定的な運営の実現に向け取組を進めてまいります。

VI 中期経営計画2025の策定

当財団では中長期的な視点に立った経営を推進していくために、中期経営計画を策定し、これに基づき事業を展開しています。現行の中期経営計画2021の計画期間が令和3年度までであることから、様々な環境の変化に対応して、財団の使命を果たし、存在価値を高めることを目的として、令和3年度中に新たに令和4～7年度を計画期間とする「中期経営計画2025」を策定します。

『収益事業』

I 公益目的外の施設提供事業

1 駐車場経営

指定管理業務として、主に来館者向け駐車場として運営してまいります。

駐車場目標収入額

施設	目標駐車場収入額
京都コンサートホール	20,000,000円
東部文化会館	5,000,000円
西文化会館ウエスティ	6,000,000円
右京ふれあい文化会館	6,000,000円
計	37,000,000円

2 オリジナルグッズ等販売

京都コンサートホールオリジナルグッズや京響オリジナルグッズ等を販売してまいります。

オリジナルグッズ等目標収入額

項目	目標収入額
京都コンサートホール	500,000円
ロームシアター京都	200,000円
京都市交響楽団	1,320,000円
計	2,020,000円

3 プレイガイドの運営

主催者から、入場券の作成業務及び入場券の販売業務を受託し、それぞれのプレイガイドで販売します。

入場券販売業務受託収入の目標収入額

施設	目標収入額
京都コンサートホール	17,000,000円
地域文化会館	60,000円
ロームシアター京都	10,000,000円
計	27,060,000円

令和3年度

収支（正味財産増減）予算

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和3年度収支（正味財産増減）予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	355	355	0	
1 基本財産運用益	355	355	0	
基本財産受取利息等	355	355	0	
② 特定資産運用益	200	200	0	
1 特定資産運用益	200	200	0	
特定資産受取利息等	200	200	0	
③ 事業収益	2,117,272	2,143,885	△ 26,613	
1 自主・共催事業収益	682,639	696,536	△ 13,897	
入場料収益	210,438	207,526	2,912	
参加料収益	2,226	2,940	△ 714	
友の会会費	3,500	66,243	△ 62,743	
京響コーラス会費	2,880	1,800	1,080	
広告料収益	49,511	49,541	△ 30	
共催事業収益	190,308	193,934	△ 3,626	
助成金収益	220,492	170,657	49,835	
物品販売等収益	2,284	3,395	△ 1,111	
著作隣接権等収益	1,000	500	500	
2 事業受託収益	97,350	131,423	△ 34,073	
事業受託収益	97,350	131,423	△ 34,073	
3 管理受託収益	670,219	643,668	26,551	
管理受託収益	670,219	643,668	26,551	
4 利用料収益	624,996	619,535	5,461	
ホール利用料金収益	587,996	582,535	5,461	
駐車場利用料金収益	37,000	37,000	0	
5 その他事業収益	42,068	52,723	△ 10,655	
企画・演出手数料等収益	10,990	13,740	△ 2,750	
賑わい事業収益	19,850	21,409	△ 1,559	
プレイガイド事務手数料収益	11,228	17,574	△ 6,346	
④ 受取補助金等	865,000	865,000	0	
1 受取地方公共団体補助金	865,000	865,000	0	
京都市補助金	865,000	865,000	0	
⑤ 受取寄付金	8,020	7,020	1,000	
1 受取寄付金	8,020	7,020	1,000	
寄付金収益	8,020	7,020	1,000	
⑥ 雑収益	10,736	11,398	△ 662	
1 雑収益	10,736	11,398	△ 662	
受取利息等	1	1	0	
管理手数料等収益	10,275	10,292	△ 17	
雑収益	460	1,105	△ 645	
経常収益合計	3,001,583	3,027,858	△ 26,275	

令和3年度収支（正味財産増減）予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
(2)経常費用				
①事業費	2,971,817	3,083,930	△ 112,113	
役員報酬	3,821	3,767	54	
給料手当	1,122,397	1,125,692	△ 3,295	
賞与引当金繰入額	42,727	44,621	△ 1,894	
退職給付費用	18,745	19,788	△ 1,043	
臨時雇賃金	47,361	42,924	4,437	
福利厚生費	190,373	191,523	△ 1,150	
会議費	25	225	△ 200	
旅費交通費	31,984	34,900	△ 2,916	
通信運搬費	18,127	19,243	△ 1,116	
減価償却費	18,915	20,300	△ 1,385	
消耗什器備品費	3,780	6,000	△ 2,220	
消耗品費	34,848	35,424	△ 576	
商品費	1,100	1,500	△ 400	
見本費	50	20	30	
修繕費	20,250	23,400	△ 3,150	
印刷製本費	38,968	46,389	△ 7,421	
広告宣伝費	36,671	43,075	△ 6,404	
燃料費	0	10	△ 10	
光熱水料費	172,587	177,832	△ 5,245	
賃借料	66,231	67,675	△ 1,444	
保険料	2,408	2,760	△ 352	
諸謝金	4,510	3,318	1,192	
租税公課	68,573	65,202	3,371	
支払負担金	2,575	23,995	△ 21,420	
チケット購入額	135	210	△ 75	
支援事業助成金	500	500	0	
委託費	1,013,428	1,069,869	△ 56,441	
接遇交際費	78	150	△ 72	
支払手数料等	8,511	7,646	865	
雑費	2,139	5,972	△ 3,833	
②管理費	27,593	26,660	933	
役員報酬	2,729	2,690	39	
給料手当	12,661	12,390	271	
賞与引当金繰入額	2,165	2,036	129	
退職給付費用	588	1,258	△ 670	
福利厚生費	3,508	3,429	79	
会議費	200	200	0	
旅費交通費	200	200	0	
通信運搬費	100	100	0	
減価償却費	681	454	227	
消耗什器備品費	100	100	0	
消耗品費	500	300	200	

令和3年度収支（正味財産増減）予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
修繕費	50	50	0	
印刷製本費	50	50	0	
保険料	300	0	300	
諸謝金	397	397	0	
租税公課	2,154	2,096	58	
支払負担金	300	300	0	
委託費	800	500	300	
接遇交際費	50	50	0	
支払手数料等	50	50	0	
雑費	10	10	0	
経常費用合計	2,999,410	3,110,590	△ 111,180	
当期経常増減額	2,173	△ 82,732	84,905	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 固定資産受贈益				
1 固定資産受贈益				
什器備品受贈益	0	49,600	△ 49,600	
固定資産受贈益計	0	49,600	△ 49,600	
経常外収益計	0	49,600	△ 49,600	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	49,600	△ 49,600	
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	2,173	△ 33,132	35,305	
一般正味財産期首残高	595,273	628,405	△ 33,132	
一般正味財産期末残高	597,446	595,273	2,173	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	55,000	55,000	0	
指定正味財産期末残高	55,000	55,000	0	
III 正味財産期末残高	652,446	650,273	2,173	

令和3年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公 1	公 2	小 計				
	文化芸術事業	ホケステラによる 文化芸術事業					
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1)経常収益							
①基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
1 基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
基本財産受取利息等	355	0	355	0	0	0	355
②特定資産運用益	200	0	200	0	0	0	200
1 特定資産運用益	200	0	200	0	0	0	200
特定資産受取利息等	200	0	200	0	0	0	200
③事業収益	1,544,170	358,968	1,903,138	408,750	27,593	△ 222,209	2,117,272
1 自主・共催事業収益	462,954	226,448	689,402	2,284	0	△ 9,047	682,639
入場料収益	97,862	112,576	210,438	0	0	0	210,438
参加料収益	1,676	550	2,226	0	0	0	2,226
友の会会費	3,500	0	3,500	0	0	0	3,500
京響コース会費	0	2,880	2,880	0	0	0	2,880
広告料収益	43,870	5,641	49,511	0	0	0	49,511
共催事業収益	171,508	27,847	199,355	0	0	△ 9,047	190,308
助成金収益	144,538	75,954	220,492	0	0	0	220,492
物品販売等収益	0	0	0	2,284	0	0	2,284
著作権隣接権等収益	0	1,000	1,000	0	0	0	1,000
2 事業受託収益	4,830	132,520	137,350	0	0	△ 40,000	97,350
事業受託収益	4,830	132,520	137,350	0	0	△ 40,000	97,350
3 管理受託収益	519,090	0	519,090	123,536	27,593	0	670,219
管理受託収益	519,090	0	519,090	123,536	27,593	0	670,219
4 利用料収益	557,296	0	557,296	225,031	0	△ 157,331	624,996
ホール利用料金収益	557,296	0	557,296	188,031	0	△ 157,331	587,996
駐車場利用料金収益	0	0	0	37,000	0	0	37,000
5 その他事業収益	0	0	0	57,899	0	△ 15,831	42,068
企画・演出手数料等収益	0	0	0	10,990	0	0	10,990
賑わい事業収益	0	0	0	19,850	0	0	19,850
プレイガイド事務手数料収益	0	0	0	27,059	0	△ 15,831	11,228
④受取補助金等	0	855,478	855,478	9,522	0	0	865,000
1 受取地方公共団体補助金	0	855,478	855,478	9,522	0	0	865,000
京都市補助金	0	855,478	855,478	9,522	0	0	865,000
⑤受取寄付金	8,020	0	8,020	0	0	0	8,020
1 受取寄付金	8,020	0	8,020	0	0	0	8,020
寄付金収益	8,020	0	8,020	0	0	0	8,020
⑥雑収益	1	0	1	10,735	0	0	10,736
1 雑収益	1	0	1	10,735	0	0	10,736
受取利息等	1	0	1	0	0	0	1
管理手数料等収益	0	0	0	10,275	0	0	10,275
雑収益	0	0	0	460	0	0	460
経常収益合計	1,552,746	1,214,446	2,767,192	429,007	27,593	△ 222,209	3,001,583

令和3年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的の外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公 1	公 2	小 計				
	文化芸術事業	ホケステラによる 文化芸術事業					
(2)経常費用							
①事業費	1,566,298	1,200,657	2,766,955	427,071	0	△ 222,209	2,971,817
役員報酬	2,183	1,365	3,548	273	0	0	3,821
給料手当	289,665	694,922	984,587	137,810	0	0	1,122,397
賞与引当金繰入額	25,658	5,795	31,453	11,274	0	0	42,727
退職給付費用	11,225	584	11,809	6,936	0	0	18,745
臨時雇賃金	15,260	5,072	20,332	27,029	0	0	47,361
福利厚生費	50,462	110,640	161,102	29,271	0	0	190,373
会議費	25	0	25	0	0	0	25
旅費交通費	14,784	16,955	31,739	245	0	0	31,984
通信運搬費	8,124	9,184	17,308	819	0	0	18,127
減価償却費	10,837	5,745	16,582	2,333	0	0	18,915
消耗什器備品費	2,732	500	3,232	548	0	0	3,780
消耗品費	19,540	10,012	29,552	5,296	0	0	34,848
商品費	0	0	0	1,100	0	0	1,100
見本費	0	0	0	50	0	0	50
修繕費	15,865	1,500	17,365	2,885	0	0	20,250
印刷製本費	29,223	9,249	38,472	496	0	0	38,968
広告宣伝費	20,961	15,560	36,521	150	0	0	36,671
光熱水料費	130,522	5,250	135,772	36,815	0	0	172,587
賃借料	119,668	97,574	217,242	1,320	0	△ 152,331	66,231
保険料	1,154	1,100	2,254	154	0	0	2,408
諸謝金	2,078	1,860	3,938	572	0	0	4,510
租税公課	41,238	6,413	47,651	20,922	0	0	68,573
支払負担金	1,621	800	2,421	154	0	0	2,575
チケット購入額	135	0	135	0	0	0	135
支援事業助成金	5,500	0	5,500	0	0	△ 5,000	500
委託費	743,859	196,544	940,403	137,903	0	△ 64,878	1,013,428
接遇交際費	55	0	55	23	0	0	78
支払手数料等	2,466	3,378	5,844	2,667	0	0	8,511
雑費	1,458	655	2,113	26	0	0	2,139
②管理費	0	0	0	0	27,593	0	27,593
役員報酬	0	0	0	0	2,729	0	2,729
給料手当	0	0	0	0	12,661	0	12,661
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	2,165	0	2,165
退職給付費用	0	0	0	0	588	0	588
福利厚生費	0	0	0	0	3,508	0	3,508
会議費	0	0	0	0	200	0	200
旅費交通費	0	0	0	0	200	0	200
通信運搬費	0	0	0	0	100	0	100
減価償却費	0	0	0	0	681	0	681
消耗什器備品費	0	0	0	0	100	0	100
消耗品費	0	0	0	0	500	0	500

令和3年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公1	公2	小 計				
	文化芸術事業	ホケステラによる 文化芸術事業					
修繕費	0	0	0	0	50	0	50
印刷製本費	0	0	0	0	50	0	50
保険料	0	0	0	0	300		300
諸謝金	0	0	0	0	397	0	397
租税公課	0	0	0	0	2,154	0	2,154
支払負担金	0	0	0	0	300	0	300
委託費	0	0	0	0	800	0	800
接遇交際費	0	0	0	0	50	0	50
支払手数料等	0	0	0	0	50	0	50
雑費	0	0	0	0	10	0	10
経常費用合計	1,566,298	1,200,657	2,766,955	427,071	27,593	△ 222,209	2,999,410
当期経常増減額	△ 13,552	13,789	237	1,936	0	0	2,173
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額			0		0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 13,552	13,789	237	1,936	0	0	2,173
一般正味財産期首残高			591,008	4,265	0	0	595,273
一般正味財産期末残高			591,245	6,201	0	0	597,446
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高			55,000	0	0	0	55,000
指定正味財産期末残高			55,000	0	0	0	55,000
III 正味財産期末残高	0	0	646,245	6,201	0	0	652,446